

園藝文化



No.132

ご挨拶

公益社団法人 園芸文化協会 会長 三好 世紀

正会員の皆様、賛助会員の皆様はじめ、ご関係の皆様には、当協会の活動に対し、日頃より物心両面でのお心遣いを賜り心より厚く御礼申し上げます。

昨年、協会の活動目的と理念を見直しました。創立時の定款の「目的および事業」に「本会は園芸による文化の進展を図り」とあり、80年間私たちはそれを守るべく活動してまいりました。この言葉をわかりやすい言葉に換え、当協会のキャッチコピーといたしました。「園芸で人を結び、心を育む。それを文化として未来に伝える」この言葉を旗印としていっそう力を尽くしてまいります。

さて、新型コロナウイルスも季節性インフルエンザと同等の扱いとなり、外国からの観光客もコロナ前以上に増えてきました。日本の食文化を求める人、ショッピングを楽しむ人、日本の原風景を見て感動した人……それを SNS を通じ全世界に発信されていますから、今後さらに増えるものと思います。

当協会でも、年間 20 回ほどのセミナーや見学等を行うなど、日本の園芸文化を広めるために積極的に活動しております。また、2027 年には横浜で園芸博が開催されます。そこで日本の園芸文化が紹介できればと願っているところでございます。「文化」そのものが AI（人工知能）の世界に支配されてしまうのでは？ と心配しています。次世代の子供たちが花を五感で感じ、ストレス社会を乗り切れるよう、我々も頑張っけてまいります。ますますのご厚情を何卒お願い申し上げます。

令和 5 年 寒露 菊花開

C O N T E N T S

園芸文化 October 2023 No.132

寸暇録 (すんかろく) 連載第七回 浮世絵に見る植物と花作り	小笠原 左衛門尉亮軒 (おがさわら・さえものじょうりょうけん)	1
令和五年度 園芸文化賞 園芸文化賞を受賞して 聞き取り・執筆:	神谷 重明 (かみや・しげあき) 永田 晶彦 (ながた・あきひこ)	4
令和五年度 園芸文化賞 品種誕生に寄り添って 37 年— ペチュニアからアジサイへの道	坂寄 潮 (さかざき・うしお)	6
芸する植物 「ツワブキ」の魅力に迫る	山本 茂広 (やまもと・しげひろ)	8
野ばらハンドブックより ～ヤブイバラ <i>Rosa onoei</i> Makino を巡って～	御巫 由紀 (みかなぎ・ゆき)	10
2027 年国際園芸博覧会 (GREEN × EXPO 2027)	公益社団法人 国際園芸博覧会協会 広報部	12
アーカイブ 人間にとって花とは何か	萩屋 薫 (はぎや・かおる)	13
事務局より (協会案内)		13
創立 80 年に向けて	事務局	[裏表紙]

表紙解説 タカネバラ *Rosa nipponensis* Crép.

谷川岳 (標高 1977m) は蛇紋岩植生が有名で、ホソバウスユキソウなど特有の植物が見られます。タカネバラは頂上付近の尾根沿いで 7 月上旬頃、可憐な花を咲かせます。関東では他に富士山、至仏山、西日本では四国の東赤石山に大きな群生地があります。

江戸時代にもすでにタカネバラの存在は知られていたようで、岩崎濯園 (かんえん) が記した『草木育種』(1818 年) の「ばら」の項には、「…富士山に産するたかねばら八形玫瑰 (はまなす) に似て甚細く刺多し。花小く淡紅なり」と記されています。(撮影: 大作晃一 2023 年 7 月 5 日 谷川岳)

題字について

『園芸文化』の題字は、正倉院に奉蔵されている聖武天皇自筆文書『聖武天皇宸翰集』(一万八千字にも及ぶ長巻) より、当協会理事の小笠原誓氏が「園」「芸」「文」「化」の四字を見つけて出し、それらを集字したものです。





図1 (3枚)
 「四季花くらべの内・秋」
 歌川豊国 (三代)
 嘉永6年刊 (役者絵)
 露天商夜店の景である。当時高価であった蠟燭を明か明かと灯している。柵上には尾張瀬戸焼の磁器植木鉢育ての盆栽、路上には素焼鉢育ての草花や根巻苗、男性の足元には芝生苗。今と変わらぬ園芸店風景である

「浮世絵は庶民生活やあこがれを写す鏡である」とも言われている。本連載第一回(126号)では「古書(主として和本)との出会い」について、第五回(130号)では「植物番附、刷もの集め」について書かせてもらった。今回は浮世絵に目を向け、収集した浮世絵から植物と花作り事例の一端を書かせてもらう。

古書や刷もの集めは、主として全国の古書店から送られてくる「目録」(カタログ)から見つけ購入する。その目録の半数位の割合で、浮世絵も扱っている。和本類集めに夢中の頃は、浮世絵の記載があるも一向に目に留まらなかったのだが、平成十年頃であったと思うが、「四季花くらべの内・秋」(図1)

浮世絵にあった園芸風景

が目に飛び込んで来た。自分の仕事である園芸屋の大先輩がこうして夜店でも園芸植物を販売していたのか。「頂門の一針」とはまさに此の事であろう。早速注文したら幸いにも入手することができた。

【寸暇録とは】

忙しい日々の暮らしの中で、少しの時間を利用して行うことなどを、寸暇云々と言うようです。園芸を楽しみとする人、園芸を業とする人、共に気づいた事柄や、植物育てをしたことを書き留めたらと思つて名付けました。

(小笠原 左衛門尉亮軒・題字署名直筆)

連載第七回

浮世絵に見る植物と花作り

す暇録

小笠原左衛門尉亮軒

一般財団法人 雑花園文庫・庫主
 公益社団法人 園芸文化協会・隠居



図2 (3枚) 「睦月」(婦人観梅) 歌川豊国(三代) 弘化4年刊(美人画)

江戸の人々に春を告げる、亀戸の梅屋敷の景。個人の屋敷であったそうだが、今風のオープンガーデンの魅(さき)がけか



図3 (3枚) 「浅草寺桜奉納花盛」歌川豊国(三代) 安政4年(美人画)

この頃からすでに“献木”(寺社などに木または浄財を奉獻すること)の習慣があったようだ

縁が繋がる蒐集の不可思議

もうひとつご紹介しよう。「葡萄狩(仮)」(次頁中・図5)は江戸の市中か近郊に觀光農園?があったのかと思わせる、「ぶどう狩」の図である。この三枚続きの作品の中心の図一枚を、名古屋の丸善書店での浮世絵即売展で見つけ、担当者は「ひょっとするとこの作品は三枚続きの一枚かも?」と説明するも、そこそこ高価であったが、面白く思ったので求めることになり、

此の作品が購入第一号となり、「睦月」(婦人観梅)(図2)、「浅草寺桜奉納花盛」(図3)と続けて収集が始まった。従って目録に目を通すところが、和本、刷もの、浮世絵と幅が広がった。

それから二〜三年も過ぎた頃、「百種接分菊」(次頁上・図4)に出合った。「何で、どうして、究極の園芸技術ではないか。江戸の植木屋今右衛門はすごい! 即注文!!」ところが残念なことにすでに売り切れ、止むなし。次に見つけた時も売り切れ、また次もと三回も目の前を素通りされ、もう縁がないものとあきらめていたら、東京古典会(注)の目録で見つけ、馴染みの書店に依頼し、漸くにして入手することができた。しかしそれ以降、こうした目録にこの図は見当たらない。

(注) 一年に一回、神田にある東京古書館で開催される一種のオークション。一般の人も下見に参加でき、業者を通じて入札、しかるべき手数料を支払って入手出来る

図4 (3枚)
 「百種接分(つぎわけ) 菊」
 一勇齋(歌川) 国芳
 弘化2年刊(見せもの絵)
 左: 坂東志うか
 中: 市川團十郎(八代)
 右: 岩井桑三郎

1本の台木用のキクを何回も摘心して枝数を増やしてそれぞれ接ぐ。同時期に開花する品種を集めるのに一苦労する



図5 (3枚)
 「葡萄狩(仮)」
 勝川春扇(二代春好)
 文化~天保頃刊(美人画)
 町娘や母子の葡萄狩の様子。この頃から観光農園があった？
 ブドウの品種は甲州ブドウか



た。その後、大阪の百貨店での展示即売目録に左側の一枚が、その一年位あとに、今度は東京の古書店のカタログに右側の一枚が載っており、誠に不可思議なことであるが、私どものところで三枚揃えることができた。浮世を渡る、生々流転、か。

こうしていつの間にか三十年の時と共に、少しづつ縁あって集まって来てくれた作品や作者を見るに、一番多い作家は、歌川国貞(三代豊国)、二番目に多いのは歌川国芳、三番目は溪斎英泉、少し古いところでは、磯田湖竜斎、歌川豊国(初

代)、明治に入り、橋本周延ちかのぶ、宮川春汀らの作品が多い。皆様よくご存じの喜多川歌麿、葛飾北斎らの作品は、納まる所へ納まってしまったのか、仮に市場へ現れても、私の手の届く価格ではなさそうので、たまに複製作品があればそれでガマンすることにしている。

これからも私の命と、ご縁があれば少しづつ集まって来ることになるでしょう。自分では蟻地獄のような「モノ集め地獄」に陥った者の運命と思って続けることでしょう。

図6 (2枚)
 「麻布の里行参」
 歌川豊広 安政頃か
 菊「世界の図」を1本の台木で3000輪咲かせた。
 新宿御苑の大作り菊の元祖か



令和五年度園芸文化賞

園芸文化賞を受賞して

菊師
菊培養師

神谷 重明

聞き取り・執筆
（公社）園芸文化協会理事

永田 晶彦

暫 鎌倉権五郎



暫（しばらく）鎌倉権五郎（愛知県高浜市吉浜 人形小路（にんぎょうこみち）菊まつり）



神谷 重明氏

二人三番 鈴の段



二人三番 鈴の段（ににんさんばそう すずのだん）
（愛知県高浜市吉浜 人形小路菊まつり）

〈受賞理由〉

菊人形づくりの伝統を受け継ぎ、70年以上にわたり国内外で菊人形、花人形の作成、展示、指導を実践してきた。また、培養師が不足する中、自ら菊人形向き品種の育種、栽培、保存に尽力し、技術の継承と後継者の育成にあたる。氏の指導による制作作品が「19北京世界園芸博覧会」で最優秀作品賞を受賞するなど、氏が本邦の菊文化に与えた影響は大きく、園芸文化の向上発展に貢献。

はじめに

この度は園芸文化賞という身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。とうに傘寿を過ぎ、人生を顧みる時間もしばしばである日々にあつて、まさかこのような嬉しい驚きを得ようとは、喜びのあまり背筋が伸びる思いでございます。

わたしは菊師です。菊師とは、菊の衣装をまとった等身大の人形、いわゆる菊人形に菊を飾り付ける職人のことです。わたしがこの道に入ったのは昭和26年、16歳の時で、当時父親の玄一が菊師の親方をしていたので、自分も自然にこの道へ進みました。初めに神谷保義さんのグループで基礎を学び、その後、三河菊師の親方と謳われた野々山吉三郎さんのもとで8年間修業しました。

「菊人形師」という職名

平成28年、菊人形作りが地元愛知県高浜市から『無形文化財』に指定されました。この菊人形作りとは、いくつかの工程の初

菊人形の時代

めから終わりまでの一連の工程を表しています。この時に「菊人形師」という職種が設けられ、わたしの新しい肩書になりました。菊人形師というのは菊人形作りのすべての工程を確認する責任者であり、現場監督であり、展示依頼者や職人などの関係者との調整役でもあります。これはまさに菊人形づくりの職人を束ねる親方の役割であり、今は亡き父の姿が偲ばれます。

菊人形の始まりは、江戸時代に巣鴨を中心に流行した菊細工だといわれています。明治9年には現在の東京都文京区の団子坂で入場料を取って菊人形を見せる興業が始まったとされ、明治の中頃には菊人形見物は庶民にとって最大級の秋の娯楽となり、全国に広まってきました。名古屋市大須の万松寺にも黄花園という菊人形の見世物小屋があり、人気を博していました。その黄花園と吉浜の人形師の出会いにはじまり、吉浜と菊人形の関わりが深まってきました。吉浜は高浜市にある、わたしの生まれ育った場所です。古くから日本人形作りが盛んであった地域です。吉浜の菊人形職人は黄花園の仕事を中心に全国で活躍し、吉浜では黄花園無き後も、これが地域文化



勅六由縁江戸桜

勅六由縁江戸桜（すけろくゆかりのえどざくら）〈愛知県高浜市吉浜 人形小路菊まつり〉



勅進帳

勅進帳（かんじんちょう）〈愛知県高浜市吉浜 人形小路菊まつり〉



日本伝統の古典菊と菊人形 藤娘の展示
（2019年 北京世界園芸博覧会）



藤娘

菊人形 藤娘（ふじむすめ）

「もう菊人形づくりでメシを食う時代は終わってしまったのだ。若い衆がこれをやっても生活ができない。」
あらためてそう実感し、それからは生業としての菊人形づくりではなく、せめて菊人形に興味のある人たちに集まってもら

これからの菊人形

このように多くのみなさんから愛された菊人形ですが、平成以降、人々の趣向が多様化する中で、菊人形展へ足を運ぶ人の数は年々減少していきました。菊人形づくりをする機会は徐々に減っていき、いつの間にか、まわりの菊人形職人も数えるほどになってしまいました。気が付けば自分の天寿も近づいている。
産業として受け継がれてきました。この流れは戦後も衰えることなく、菊人形づくりの要望は増え続け、交通網の発達とともに遠征の範囲はますます広がっていききました。私もその一員として北海道から鹿児島までの津々浦々をめぐり、果ては海外からの招きで、欧米や中国の博覧会においても菊人形をお披露目し、グランプリをとるまでになりました。

終わりに

ここまでわたしの話にお付き合いいただき、ありがとうございます。ここに記したこと是一片が皆様の心に残り、いつかどこかで菊人形の姿を思い浮かべてもらえるものであれば、それこそは菊人形を受け伝えるものにとっては空谷足音となることでしょう。
い、伝統文化としてその技を受け伝えてもらおうと考えるようになりました。今ではわたしの所で学んでもらった皆さんの、自分たちだけで仕立てた菊人形が、地元の菊人形まつりで展示されるまでになっています。また、わたしの指導を仰ぎに来た花き市場の方が海外の園芸博覧会で出展した菊人形が最優秀作品賞をとられたそうです。今後、菊人形職人が現れることはないかもしれませんが、このように菊人形づくりの伝統が細くとも、未永く続いてくれればと切に思う所です。

末筆となりましたが、これまで教え支えてくださった仕事仲間の皆様と苦勞を共にしてくれた家族に対し感謝の念を捧げ、お礼の代わりとさせていただきます。

*空谷足音 寂しい谷間で思いがけず聞く人の足音



2019年 北京世界園芸博覧会にて、神谷氏の指導を受けて制作された菊人形が最優秀作品賞を受賞

令和五年度 園芸文化賞

品種誕生に寄り添って37年——

ペチュニアからアジサイへの道

育種家・有限会社フローラトウエンティワン代表取締役

坂寄 潮

〈受賞理由〉

企業在職中、這性のペチュニア原種から開発した「サフィニア」が、世界中で伝説的な大ブレイク。その後も育種家としてさまざまな画期的品種の開発作出をリードして園芸文化の向上と発展に貢献。2018年には、従来の常識を覆すアジサイの新品種を発表。世界的な評価を得て、園芸界を牽引し続ける。

スーパーチュニア *Petunia × hybrida* Supertunia



デイブレイクチャーム
Day Break Charm

ピンクスターチャーム
Pink Star Charm

ブラックチェリー
Black Cherry

スーパーベル *Calibrachoa × hybrida* Superbells



ミスライラック
Miss Lilac

イエローシフォン
Yellow Ciffon

ストロベリーパンチ
Strawberry Punch

ダブルシフォン
Double Ciffon

受賞を機に 重ねた歳月を振り返る

園芸文化賞をいただくことになり、これまで過ごした時間とそで生まれそして消えていった品種たちも含めて存在した価値を認められていたのだと思い、本当に有難いことだと思います。数えてみますと花の育種という天職が私に舞い降りてきてから37年もの月日を経ており、降り積もるように重ねてきた仕事を改めて振り返る時なのかもしれません。

この37年、偶然あるいはご縁の必然により多くの出会いに恵まれました。ブラジルから持ち帰ったペチュニア原種をもとに生まれた「サフィニア・パープル」の大ブレイクを機に、自社（サントリー）で品種開発を進めることになり、私は新しいチームのチーフブリーダーとして、ペチュニア *Petunia* やカリブラコア *Calibrachoa*、バーベナ *Verbena*、マンデビラ *Mandevilla*、シネリア *Cineraria* (*Pericallis × hybrida*) 等の品種開発を進めました。独立後もペチュニアやカリブラコアの系統（上段写真参照）ばかりでなく、つねに10〜20品目の育種アイデアを並行して進める中でバーベナ、タゲテス *Tagetes*、エボルブルス *Evolvulus*、フクシア *Fuchsia*、メカル

植物調査の折の アジサイ原種との出会い

ドニア *Mecardonia*、フロックス（インテンシア）*Phlox* (*Intensia*) などたくさんさんのユニークな品種たちが巣立っています（下段写真参照）。けれども私自身、10年ほど前まではアジサイの育種を本格的にやるようになるとは全く考えてはいませんでした。世界トップクラスの育種家ひしめく日本でビジョンも材料も持たない私に何ができるか想像もつきませんでした。しかし、突然という言葉がふさわしい形でその機会は巡ってきました。

2010年徳島県で植物調査を行った折、目的の植物を見つけたことができずいた時にそれはやってきました。付近にアジサイの野生種らしき株がちょうど花をつけていたのです。花に強い香りがあり、葉は小さく、脇芽にも花が付くものでした。マクロフィラ系の園芸種との交配はやや難しいと考えられましたが、ヤマアジサイとの自然雑種も報告されており胚珠培養を利用すればそう難しくないだろうと判断し、交配してみることにしました。採集した個体は2011年5月に開花、一番先進的な園芸種と交配を行い、年末には数十個体をビニールポットに定植するところまで



タゲテス ゴールドメダル
Tagetes lemmonii (Gold Medal)



フクシア シャドウダンサーズ
Fuchsia (Shadow Dancers)



バーベナ スーパーベナ大輪青紫
Verbena (Superbena large lilac blue)



フロックス：インテンシアブルーベリー
Phlox (*Intensia*) Blueberry



メカルドニア オリータ
Mecardonia × hybrida Aurita



エボルブルス ブルーマイマインド
Evolvulus (Blue My Mind)



アジサイ ラグランジア
クリスタル ヴェール
Hydrangea hybrida Luxrangea Crystal Veil

アジサイ ラグランジア
クリスタル ヴェール 2
Hydrangea hybrida Luxrangea Crystal Veil 2
初代クリスタルヴェールの改良種

アジサイ ラグランジア シリーズ

側芽（枝につく芽）に花房がつくので株いっぱいの花が楽しめる。葉は従来のほぼ4分の1程度と小さく、これまでにない優雅な草姿。画期的な新ジャンルのアジサイ



チェルシーフラワー
ショウの新品種コンテストで、プラント・オブ・ザ・イヤー・ゴールドメダルを受賞



アジサイ ラグランジア シャンデリーニ
Hydrangea hybrida Luxrangea Chandelieri II



アジサイ ラグランジア ブライダルシャワー
Hydrangea hybrida Luxrangea Bridal Shower と坂寄潮氏



突然の 大きな賞の受賞

全く新しい品種というのは、時として受け入れてもらえない場合もあります。当初はこの新しいアジサイも商品化がなかなか決まりませんでした。植物について世界でもトップクラスの才能を持つドイツ人の古い友人が商品化を瞬時に判断して動き出したのは2014年で、イギリスとフランス、ドイツでの生産販売体制が確立したのは2017年でした。

2018年春、彼からRHS主催のチェルシーフラワーショウの新品種コンテストに『ランナウェイ・ブライド・スノー・ホワイト』という品種名で出品するという連絡が来たのですが、初開花から5年も経過していたため、特に気にも留めませんでした。しかし……運命のいたざらともいえる最高賞の「プラント・オブ・ザ・イヤー・ゴールドメダルを獲得!!」というメールが来たときの驚きとRHSのホームページ上で「新

進み、2013年5月下旬に咲き始めました。それらのアジサイは、今までに見たことのないような花芽の着き方と株姿、葉も小ぶりです。花とのバランスがとても良く、これはもしかしたら常識を覆すようなアジサイかもしれない……という印象を受けました。

次の世代に 伝えたいこと

人類が人工交配という技術を獲得して以来250年、あらゆる植物の品種改良は飛躍的に進みました。花の育種でも、もう改良の余地がないのではと思われるような植物も増えていきます。人工的でプラスチックのような花々が増え、必要とされる価値が何なのかわからないようにも思いませんか？

私が37年の中でずっと繰り返し見つめ、考え、進めてきたこと。花の育種を天職として得てもずっと「サフィニアの大ブレイクがなぜ起きたのか」を問い続けました。そして、使われていない遺伝資源の持つ価値が人知を超えるのだろうか「答えはフィールドにある」という結論に至りました。橋本梧桐先生の教え「地球の植物財産目録のうち、現在までに（観賞用植物の）品種改良に利用されていないもの（遺伝資源）をひとつでも多く発掘し、今までにない新しい価値を持った品種を世界中の消費者に提供する」という使命を担っています。これからもアジサイに限らず、自然さを失うことなく、かつ今までにない価値を持つ品種を皆様に提供できるように努力を続けたいと思います。

芸する植物 「ツワブキ」の魅力に迫る

ツワブキ育種家
(有) ダイカツプラント・ツワブキ育種生産

山本 茂広

優雅でたおやかな
「芸」を愛する文化

ツワブキ栽培家は野菜農家だと思われることがよくありますが、食べることはない園芸品種を栽培しています。このツワブキの園芸品種は、特殊な遺伝子を発動させることにより植物に付加価値をつける日本独特の文化です。

それらは、「芸」とよばれ、特殊な遺伝子とは、奇形を発現する遺伝子なのです。「芸」は、光合成が滞る状態と引き換えに優雅で可憐な姿をたおやかに演出します。これこそが、まさにツワブキの魅力です。

多岐にわたる複雑な芸を
今も継承する園芸技術

「芸」には、「花芸」、「葉芸」、常に「芸」を発現させる「通年芸」、春に「芸」をみせる「春芸」、秋に現れる「秋芸」。また、成長と共に「芸」を強く発現しはじめる「後ハゼ芸」や発現から成長する過程で「芸」を失う「後暗む芸」、そして、「芸」が複雑



写真1

写真1(表の1) ツワブキ '天星'

に数種類も絡み合う「混合芸」等。「芸」とは、多岐に及ぶものなのですが、「芸」こそ、江戸時代から伝わる秘密の園芸技術を現在に継承している「江戸園芸」とよばれるものです。この「芸」はその品種のもつ隠れた遺伝子を日長や温度そして、水分量をいかに反応させるかで成長点から発現を促します。

先人が今に伝えた真髓が
現代社会の切り札にも

日本の四季、それは、少しずつだが、決して止まらないで流れる時間。「芸」の秘密とは、常に今という時間に重力というエネルギーがあたえられていることで遺伝子が反応することです。「植物も人も今に合わせて生きること」こそが、先人達が今に伝える園芸文化の真髓であります。

かつては庭園や花壇の名脇役と呼ばれたツワブキも、近年では、都市の屋上緑化や最先端の壁面緑化システムの主役となり、都市のヒートアイランド現象を解消する切り札として注目を集めています。(写真下左)



三菱一号館の植栽 (東京都千代田区丸ノ内)



渋谷ストリームの植栽 (東京都渋谷区)



ツワブキ黄花八重咲き



ツワブキ白花



写真 2

写真 2 (表の 2) ツワブキ '浮雲錦'。ハウス内にて



写真 3

写真 3 (表の 3)
ツワブキ '金環'



写真 4

写真 4 (表の 4) ツワブキ '白環'



写真 6



写真 5

写真 5 & 6 (表の 5)
ツワブキ '砂子'

写真 5 (右) : 展開前の黄葉
写真 6 (左) : 展開後の砂子斑

品種名	芸名	芸位置・時期 / 花色	特徴・備考
1 てんぼし 天星 写真 1	星斑 (ほしふ)	葉：通年芸	その名の通り、天に星がきらめいているような品種。鮮やかでたくさんの黄色い斑と、肉厚で光沢ある丸葉が魅力。赤色の葉柄も美しい。葉芸は通年見られる
2 うきぐもにしき 浮雲錦 写真 2	刷込斑 (はきこみふ) 白色斑 (しろいろふ)	葉：通年芸 つぼみ：秋芸 花：黄色	突然変異を「奇品」として珍重した江戸時代にはすでにあつたツワブキの代表品種。つぼみも白い縞模様が入る芸を見せる。栽培環境に慣れると直射日光下でも大丈夫なので幅広く使えるが、先祖返りしやすいため、葉全体が緑色のところを株分けで除去し、芸を残している。冬には葉の縁が紅色を帯びる
3 きんかん 金環 写真 3	金環斑 (きんかんふ)	葉：春芸 花：黄色	葉の縁に見られる金色の斑「金環斑」はこの品種にしか見られない芸。芸は春の一時期にしか発現しない。この斑を出せるかどうかが作り手の腕の見せどころである
4 はくかん 白環 写真 4	展開前：曙斑 (あけぼのふ) 展開後：脈斑 (みやくふ)	葉：秋芸 花：黄色	「秋にも「金環」のような品種が欲しい」という要望から作出された品種。出芽 (※) は葉全体が乳白色の「曙斑」で、8月ごろより薄緑色の斑を葉脈に沿って発現させる
5 すなご 砂子 写真 5 & 6	展開前：曙斑 (あけぼのふ) 展開後：砂子斑 (すなごふ)	葉：春・秋芸 花：黄色	展開前の葉は黄色で、展開終了に近づくにつれ白い砂子斑を発現する。春、秋の出芽時、新葉が曙芸を出す。葉が大型化する大型品種

※新葉のことを出芽 (でめ) という

野ばらハンドブックより

～ヤブイバラ *Rosa onoei* Makino を巡って～

千葉県立中央博物館 自然誌・歴史研究部 植物学研究科長
公益社団法人 園芸文化協会 理事

御巫 由紀

野ばらと 牧野富太郎博士

日本には16種類の野ばらがありま
す。そのうち、牧野富太郎博士が学名
を発表したのはヤブイバラ *Rosa onoei*
 Makino ヤブイバラ *Rosa fujiisanensis*
 (Makino) Makino の2種。シヤコイバラ
 Rosa paniculigera (Makino ex Koiz.)
 Momiy. も牧野博士の命名に基づいて、
 山泰一先生が正式発表されました。

牧野博士が書いたヤブイバラ原記載の
最後に「I have named this species in
memory of Motoyoshi Ono, grandson
of well-known Ranzan Ono. 著名な小野
蘭山（江戸時代の本草学者）の孫である小
野職愨を記念してこの種を命名した」とあ
ります。そう、NHKの朝ドラ「らんまん」
の博物館の植物学者・野田基善のモデルと
なった小野職愨にちなんで牧野博士は、ヤ
ブイバラの学名をロサ・オノエイとしたの
です。

ヤブイバラの特徴 伏毛とは？

ヤブイバラは西日本に自生する野ばら
で、花径わずか1.5cmと小さな白い花を咲
かせます。ヤブイバラの原記載には、葉
裏の主脈と小花柄と萼筒が「adpressed-
pubescent」すなわち「伏毛で覆われている」
とあります。「伏毛」って？

図1、図2をご覧ください。ヤブイバラ
には葉裏や小花柄・萼筒の基部から先端に
向かって、伏せたように生える毛がありま

す。これを伏毛といい、日本の他の野ばら
には無い特徴なので、ルーペで見るとこの伏
毛さえ確認できれば、ヤブイバラを見分け
るのは簡単です。

このように難解な専門用語がひと目でわ
かり、しかも野外で持つて歩ける本が欲し
くて『野ばらハンドブック』を作りました。
写真家・大作晃一さんが特殊な深度合成技
術を駆使して撮影してくださった写真のお
かげで、日本の野ばらの花、葉、枝、刺、実
タネなど細部をくまなく、もしかすると実
物を肉眼で見るとはつきり理解できる本
になりました。

自然交雑種 ヤブテリハノイバラ

昨年4月、高知県立牧野植物園で日本
の野ばらの見分けかたについて講演をし
ました。終了後に植物園の職員の方が「高
知市内で見慣れないバラをみつけたので
見てほしい」と鉢植えを持ってこられま
した。見てびっくり、かつて牧野博士が
高知市内の一宮という場所で採集された
標本をもとに、大場秀章先生が2001
年に *Rosa* × *makinoana* H. Ohba と命名
された、ヤブイバラとテリハノイバラの
自然交雑種ヤブテリハノイバラではあり
ませんか。「どこで採集されましたか？」
と聞いて二度びっくり。なんとまさに一
宮で採集されたとのこと。残念ながらそ
の場所が開発の危機にあり急いで調査に
行って発見されたということでしたが、
今もそこにそのバラがあると知ることが
できました。

ヤクシマイバラは 盆栽にも 海外でも

屋久島で見られる、ヤブイバラの花や
葉がさらに小型化した地域変異個体はヤ
クシマイバラと呼ばれ、かつては *Rosa*
 yakushipina Nakai et Momiy. という学名
が付けられていました。放置すれば枝は長
く伸びますが、刈り込みが強いで盆栽に
用いられます。先日、ベルギーで開かれた



図2 ヤブイバラの伏毛：葉裏の脈上（図1、2撮影：大作晃一）



図1 ヤブイバラの伏毛：小花柄と萼筒



書名：野ばらハンドブック
 表紙：タカネバラ
 解説：御巫由紀 写真：大作晃一
 発行：文一総合出版
 発行日：2019年6月10日
 サイズ：新書判 152ページ
 ISBN：978-4-8299-8136-8
 価格：¥2,420 (本体 ¥2,200)



画像：著作権者および文一総合出版の許可を得て使用

バラの国際会議で、バラのコレクションで有名なヘックス城を訪れたところ、所有者のドウルセル伯爵が「ぜひ見せたいものがある」と私を連れて行ったのが、中国式庭園の入り口両側に丸く刈り込まれた2株の大きなヤクシマイバラでした。伯爵のお母上がどこからか手に入れて大切にしていたとのこと。見事な仕立てで株の表面全体にびっしりと蕾が付き、数輪が咲き始めていました。遠くベルギーの由緒ある庭園でヤクシマイバラに出会うとは、驚きました。



世界バラ会連合 世界大会 授賞式 (右から二人目が筆者)

昨年11月、オーストラリアで開催された世界バラ会連合の世界大会で、『野ばらハンドブック』が優秀書籍賞を受賞しました。世界バラ会連合は40カ国のバラ会が加盟する連合で、3年に一度、殿堂入りのバラ、優秀庭園賞、そして優秀書籍賞を表彰しています。優秀書籍賞はバラ栽培の振興やバラに関する園芸科学の基礎知識の向上などに貢献した書籍を表彰する目的で2004年に設立され、過去5年間に出版されたバラの書籍を対象として審査が行われます。今回は12作品がノミネートされ、6作品が受賞しました。フランスの知人が言ってくれた「野ばらがある世界中の他の国々でも、この本と同じスタイルで、同じように簡潔で啓発的な本が出版されたらどんなに素晴らしいことか」という言葉が嬉しく心に響きました。

世界バラ会連合
 優秀書籍賞 受賞

2027年国際園芸博覧会 (GREEN × EXPO 2027)

～幸せを創る明日の風景～

Scenery of the future for Happiness

公益社団法人 国際園芸博覧会協会 広報部



はじめに

2027年3月から神奈川県横浜市で、国際園芸博覧会を開催します。A1クラスの博覧会は、日本では1990年「大阪花の万博」以来、37年ぶりの開催であり、首都圏で開催される初めての万博です。

幅広いテーマをもとに来場者に農・園芸の魅力を発信していく中、日本が誇る園芸文化にも着目いただけるよう計画を進めております。ぜひともご注目いただければ幸いです。

国際園芸博覧会とは

国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造等を目的に、世界各国で開催されてきた博覧会です。日本においては、2005年の愛知万博や2025年開催予定の大阪・関西万博に続いて開催される国内7回目のEXPO（万博）となります。

なお、前述のとおり、日本で開催されるA1クラスの国際園芸博覧会としては、1990年に大阪の鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会（大阪花の万博）以来、37年ぶり2度目の開催となります。大阪花の万博はアジア初のA1クラスの国際園芸博覧会であり、約半年間の会期で2,300万人以上の参加者数を記録しました。これを契機にいわゆる“ガーデニングブーム”が起き、花壇苗の出荷量が増加するなど産業振興に大きな効果をもたらしました。

今後について

博覧会協会は、2023年1月に、博覧会開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会基本計画」を策定・公表しました。この基本計画に基づき、各事業を推進するとともに、各国政府に対する参加招請や出展者・支援者・来場者に向けた機運醸成等の取り組みなど、2027年の開催に向けた準備を進めています。これらの情報は、公式ウェブサイトや公式SNSで随時発信していきますのでぜひご活用ください。



概要

名称 2027年国際園芸博覧会

International Horticultural Expo

2027, Yokohama, Japan

会場 旧上瀬谷通信施設
(神奈川県 横浜市)



開催期間

2027年3月19日

～2027年9月26日

博覧会区域 約100ha

(内、会場区域 80ha)

予想来場者数：1,500万人
(地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む)

有料来場者数：1,000万人以上

資金計画

会場建設費 320億円

(財源：国、地方公共団体、民間による負担)

運営費 360億円

(財源：入場料、営業権利金等)

WEBサイト

<https://expo2027.yokohama.or.jp>



会場イメージ図 (2023年9月時点)



花の消費は文化のバロメーターだと言われています。戦争や飢餓に苦しむような状態では、花を觀賞するゆとりもないからでしょう。

ところで、なぜ人間は花を愛するのだろうか、と尋ねられると、若い人は多分「きまってるじゃん。花が奇麗だからさ」と答えるでしょう。しかし、考えてみるとそれだけではないようです。もちろん花が奇麗だからコサージュにして胸や髪につけたり、生花や鉢植えにして部屋を飾り、庭や花壇に植えて戸外の装飾に使います。つまり、人間は花を装飾品として使うのが第一の目的なのです。しかし、装飾のためだけなら、造花でも良いわけで、なにも苦勞して生きた花を使わなくても良いわけです。

花という字の語源を考えてみましょう。花は草かんむりに化けるといふ字を書きます。それは花が植物体の中で最も変化しやすい部分だ、ということを示しているのだそうです。昨日まで蕾だったのが、今朝はバツト咲き、翌日はもう散ってしまうというように、変化のほげしい、うつろいやすいのが花の本性的なのです。ですから林芙美子は「花の生命は短くて、苦しみことのみ多かりき」と詠い、小野小町は「花の色は 移りにけりな いたずらに 我が身世にふる ながめせしまに」と詠ったのです。花が私達のことを捉えるのは、美しさだけでなく、うつろいやすい花に、私達の生命のうつろい

が共感できるからだと思われれます。

第三はシンボルとしての花です。花は私達の心に何か訴えるもの、あるいは強くひかれる神秘的なものを持つています。それで昔の人は、花にはそれぞれの霊力があると思つたのです。どの民族にも花にまつわる神話や伝説がたくさんあります。西洋には昔から花言葉があります。人間の共通した喜怒哀楽の心情を、言葉ではなくて、花に託して表現したものです。さらにシンボルとしての花は国花、県花、市花などもなっているわけです。

第四は慰めとしての花です。気分の滅入ったとき、落ち込んだ時に、花は私達に慰めや安らぎを与えてくれます。ですから、お見舞いに花を贈るわけです。

我が国は高度経済成長期以来、物質的には豊かに成りましたが、ほげしい競争社会の中で、生きる目標が見出せず、孤独や不安を感じる人が多くなっています。そんな時代にあつて、花のはたす役割はますます大きくなるものと思われれます。

(通巻一〇七号 平成二年発行)

プロフィール・はぎや かおる

(執筆当時 園芸文化協会顧問)

1920(大正9)〜2006(平成18)年。新潟大学名誉教授、日本ツバキ協会会長、新潟いのちの電話事務局長。椿とチューリップの品種改良に従事。平成8年「第4回松下幸之助花の万博記念賞」受賞

事務局より(協会案内)

公益社団法人 園芸文化協会は1944(昭和19)年に、園芸による文化の進展を目的に設立された園芸愛好団体です。来年創立80年を迎えます。園芸文化の普及と発展のためにさまざまな活動を行っています。

主な活動

- ①園芸セミナー(講座、見学会など)の開催
- ②協会報『園芸文化みんなの広場』、協会誌『園芸文化』の刊行
- ③功労者表彰(園芸文化賞)
- ④調査研究
- ⑤園芸活動への支援(講師紹介、審査員派遣、寄稿・監修、後援協賛、賞の交付 他)

会員特典

- ①当協会主催の園芸セミナー等に会員価格で参加できます。
- ②各種園芸イベント等の招待券や優待券を進呈します。
- ③協会報や各種園芸イベントの案内など役立つ情報をお届けします。
- ④園芸に関わる方々との交流の場を提供します。
- ⑤賛助企業より特別提供品を進呈します。(入会時、交流会参加時)

入会について

- ・会費 正会員(個人) 5,000円
- 正会員(団体) 10,000円
- 賛助会員(企業等) 1口 20,000円〜

- ・いつでも、どなたでも入会できます。
- ・会費の有効期限は納入日より3月31日までです。
- ・個人会員に限り、10月1日以降入会の場合、初年度のみ年会費半額(2,500円)となります。

入会方法

①郵便振替にて

入会専用の「払込取扱票」にて年会費をお払い込みください。(手数料不要)

②入会申込書にて

銀行口座への振込や請求書の発行をご希望の方は、「入会申込書」を事務局あてご送付ください。申込書到着後、入会手続き方法をご案内いたします。

公益社団法人 園芸文化協会 事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷1-20-7 安藤ビル202号室

電話：03-5803-6340(平日10:00~17:00)

FAX：03-5803-6341

メール：enbun@soleil.ocn.ne.jp

創立 80 年に向けて

園芸文化協会は 2024 年 3 月 10 日に創立 80 年を迎えます。昭和 23 (1948) 年に創刊した『園芸文化』。中断と再開をくりかえし、132 号までたどり着きました。
守るのも文化であれば、時代に合わせて変わるのも文化。
これからも園芸を愛する心とともに積み重ねていきます。



第 1 号
1948 (昭和 23) 年発行
しかし発行後まもなく、GHQ の忌避に触れて没収された。66 年後の 2014 (平成 26) 年に復刻。
GHQ によって没収日等が書き込まれている



32 号
1970 (昭和 45) 年発行
このころからカラー 2 色刷りに。表紙は「ペゴニア・シルバージュエル」



50 号
1974 (昭和 49) 年発行
特集は当協会が毎春日本橋三越本店で開催していた「花の文化展」



100 号
1988 (昭和 63) 年発行
100 号に合わせてか、中身もちょうど 100 ページ。熱意と勢いに満ちあふれている



120 号
1996 (平成 8) 年発行
サイズ、内容ともにリニューアル。表紙写真は植物写真家・埴 沙萌 (はに・しゃぼう) さん



130 号
2022 (令和 4) 年発行
誌名『園芸文化』の題字を、聖武天皇自筆文書『聖武天皇宸翰雑集』より「園」「芸」「文」「化」を見つけ出し集字したものと

園芸文化 No.132

2023 年 10 月

編集発行：公益社団法人 園芸文化協会

発行責任者：三好 世紀

編集：(公社)園芸文化協会 編集委員会

編集委員 (奥 峰子 南場浩一 御巫由紀)

事務局：〒113-0033

東京都文京区本郷 1-20-7

安藤ビル 202 号室

TEL 03 (5803) 6340

FAX 03 (5803) 6341

E-mail: enbun@soleil.ocn.ne.jp

HP: <https://enbun.org>

* DTP デザイン/中村奈保子 (ムルハウス)

* 写真提供/大作晃一 小笠原左衛門尉亮軒
神谷重明 坂寄潮 永田晶彦 (公社)2027年
国際園芸博覧会協会 丹羽理恵 文一総合出版
御巫由紀 山本茂広 (五十音順)

* 無断転載・複製・複写 (コピー) を禁じます